

## 「連合会を知ってもらう為に意識した35号です。」

本号（35号）を記念し北海道ふるさと会連合会の多少の歴史に触れたいと、このページを作成いたしました。

北海道の命名は明治元年と共に「松浦武四郎」によって付けられ、明年2018年で150年になります。

開道150年の事業計画が高橋はるみ知事主導の下、蝦夷地と言われた所への開拓者の苦勞、

アイヌ民族との共生、北海道となつてからの明治～昭和そして平成までの道のり、

これら歴史的な事を色々な事業表現で「北海道150年・どこへ」とのタイトルでの展開が楽しみでもあります。

その様な中で我が「北海道ふるさと会連合会」も40周年を迎えます。

明年の新年交礼会を40周年記念事業にしようと現会長（高橋照美）を中心に

40周年記念事業委員会（会長が委員長・副会長5名・事務局1名・各事業部から1名の4名・計11名）を

6月に立ち上げ色々検討・進行中、その都度役員・理事会に報告しながらも進んでいます。

この会報が皆さんに読まれる頃には40周年記念事業の大枠もはっきりし、内容もお知らせされている事でしょう。

2017年9月現在、北海道ふるさと会連合会は89の「ふるさと会」と11社の協賛企業に寄ります100団体の連合体です。

各ふるさと会の平均的な集まりは、年間1回の総会・懇親会をベースとして

役員会は何だかだと3～5回は仲間内にて飲み会が持たれているのではないのでしょうか、

この40周年を迎えるにあたり、各ふるさと会の総会・懇親会の中身を是非とも広報部会としては追ってみたい、

40周年記念事業のなかで予定しています記念誌にて企画を実施し、各ふるさと会の今後の集まりに参考になればと思っています。

## 「北海道はやっぱり広い、一口に道産子と言ってもねー。」

北海道と一口に言ってもやはり東西南北を見渡しますと広いと感じます、

函館と根室では664.7キロの距離があり、多少の人間気質、言葉の違いなどもあるようです。

同じ海でも海産物の違いも大きく、昆布一つ取っても利尻・日高・羅臼等々味、大きさ、硬さ、出荷の仕方等

私たち素人には分らない事が沢山あるようです。

最近では農作物にも大きな変化があり、この50年間で勿論農産物への改良もあります、

気温が2～3度上がり米・穀物・野菜・果物すべて生産物が本州並みに成長し、味も良く市場も大きく変り

北海道は日本の食料基地化として大いに期待されています。

私たちの知っている北海道は、大きく支庁の名の下に市町村がありましたが、現在は総合振興局・振興局に名前が変わっています。

14の総合・振興局に35市129町15村の179の市町村があり、東京近郊にそれぞれの「ふるさと会」があるかと、

その中で89会の「ふるさと会」が連合会に加盟しています。



現在、連合会に保存されている会報の控えは写真の22号から34号までの10年分です。残念ながら創刊号～21号までの分では何号かは個人的に保存された号を見ている方が、連合会には有りません。明年迎えます40周年記念事業にて記念誌の発行も予定しています。是非とも今号を見て気が付いた方、是非ともお知らせください。40周年記念誌の作成にご協力頂きたいと思ひます。尚、22号～27号の時は年2回の発行でした（広報部会・頑張っていましたね）。